（公財 ）日本城郭協会 ２０２１年度事業計画

**１．「城郭文化振興に寄与した個人及び団体を顕彰する事業」を創設**

　　当協会は城郭文化のさらなる振興のため新たな事業として、２０２１年度に

城郭文化振興に寄与した個人・団体を顕彰する制度を創設、発表する。

個人部門では城郭研究分野で功績のあった若手研究者を顕彰する。団体部門では

城郭の保存や発掘や振興に評価の高い団体（城）を顕彰する。

具体的な内容は４月に記者発表する。

**２.「会員増強計画―会員増強への取り組み強化・推進―**

協会の事業や活動を支えてくれる会員の増強は協会の運営の基本活動である。

会員は近年増加しているが、2020度に引き続き2021年度も会員増強に取り組む。

個人会員向けに特典やサービスの強化を図り、法人会員、や城郭会員の加入促進に努める。

協会のホームページは改良して見やすくなったこともあり、協会へのアクセスは

急増している。

２０２０年度は当協会の公認サイト「城びと」と連携してさらに魅力のある

ホームページを目指す。

**３．「日本１００名城スタンプラリー」・「続日本１００名城スタンプラリー」の　運営およびPR強化**

　　２０１８年４月にスタートした「続日本１００名城スタンプラリー」は「日本１００名城スタンプラリー」と相まって多くのお城ファンに支持され、参加者もますます増えている。協会はこれまで参加者の要望をスタンプラリーの運営に反映、スタンプ設置場所やスタンプの状態改善などに努力する。

　本年度も新型コロナ対策で登城中止やスタンプ設置場所閉鎖などが措置をとる城が予想され、これらの情報は詳細かつ迅速にホームページで城郭ファンに伝えていく。

また「日本・続日本１００名城スタンプラリー」自体を知らないお城ファンもまだ多いことからＰＲを一層強化する。

**４、「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」の強化・継続**

「城の自由研究コンテスト」は２０２１年度２０回を迎える。このため

　　第２０回記念として今回から小学生の部と中学生の部に分けて、昨品を

　　募集し、それぞれの優秀作品を表彰する。今回から応募者の便宜を図るため

専用メールアドレスへのメールによる応募方法を検討する。表彰式は今回から「お城EXPO」の会場で開催し、社会的認知度のさらなる向上を図る。

**５．「お城ＥＸＰＯ2021」の開催**

２０１６年12月にパシフィコ横浜で初めて開催し評価を得た「お城ＥＸＰＯ」だが、２０２１年度も「お城ＥＸＰＯ２０２１」として１２月下旬土、日二日間にわたって開催する予定。

当協会など主催者で構成する実行委員会が企画、実施するが、魅力的なイベントを開発展開して、入場者増を図る。

**６．「日本城郭検定」及び「EXPO検定」の強化・充実**

日本城郭検定は本年も６月と11月の２回開催とする。２０２１年２月にテスト

実施した入門者向けのオンライン検定は本年度は本格的に導入する

「お城EXPO」会場で行っている「EXPO検定」については検定結果を当日会場で発表・表彰するなど受験者サービスを強化する。

７. [会報・HP]等広報活動強化

　　当協会の公益事業活動を広く社会に周知させる重要性だけでなく、会員への

情報サービス機能や新会員加入促進に果たす役割の重要性から「会報・HP」の

さらなる強化を図る。また当協会の公式認定サイトの「城びと」との情報交換や

連携を強める

**８．「熊本城復興義援金など災害にあった城の復旧支援」**

２０１６年度新設した熊本城復興支援のための「熊本城復興義援金」は２０２１度も継続するとともに災害にあった城の復旧事業のPRなどに協力する。

**10．「学術委員会の活動強化及び学術委員」の拡充**

学術委員会の活動を強化する。お城ＥＸＰＯの講演企画にも積極的に関与すると共に「日本城郭検定」の問題作成を主導し、検定問題の充実を図る。また当協会の公認

サイト「城びと」へ協力を強化するほか、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応する。

学術委員に城郭研究者や各城の学芸員を新たに委嘱する。

**1１．「テレビ・新聞・出版物への監修・助言」の体制強化**

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応する。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝されているが、データの整備など体制をさらに充実させる。